

PRESS RELEASE



株式会社 ユニマツ リタイアメント・コミュニティ

報道関係者各位

2021年12月10日

都内唯一、介護保険サービスと保険外サービスの 同時一体的施設ブランド2号店「ウェルビスタ ケアスタジオ上北沢」 2022年1月4日開設

～ウェルビーイングを目指す「リハビリ難民」のための理想的なリハビリスタジオ～

全国で高齢者介護事業を展開する株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ(本社:東京都港区、代表取締役社長:中川清彦)は、2022年1月4日、東京都世田谷区に機能訓練型デイサービスと保険外個別リハビリサービスの同時一体的施設「ウェルビスタ ケアスタジオ 上北沢」を開設いたします。また、開業に先立ちまして、12月8日から見学・体験プログラムの受付を開始いたしました。

当施設は、2019年6月に東京都中野区に初出店した「ウェルビスタ ケアスタジオ 中野新橋」に続く2号店となります。東京都内では、介護保険サービスと保険外サービスを同一体的に提供する施設は他にはなく、「ウェルビスタ ケアスタジオ」が唯一^(*)の施設ブランドとなります。

(ウェルビスタ ケアスタジオ:<https://wellbista-cs.com/>)



ウェルビスタ ケアスタジオ 上北沢(イメージ)

コンセプトは「必要なときに必要なリハビリを、なりたい姿をかたちにする“WELL-BEING AGAIN”」。利用者の身体的・精神的・社会的に良好な状態を意味する“well-being^(*)”を目指します。

(*) 2021年12月時点

(**) well-being(ウェルビーイング)とは、1946年WHO憲章で示された幸福の概念で「心身ともに、さらに社会的にも健康な状態を目指し、満足した生活を送れる状態にあること」をいいます。

■「ウェルビスタ ケアスタジオ」開設の背景:当社が捉える社会課題「リハビリ難民」

厚生労働省の「2019年 国民生活基礎調査の概況」によると『介護が必要になった主な原因』の第二位に脳血管疾患(脳卒中)があげられています。このような状況にありながら脳血管疾患(脳卒中)を患った場合、入院中でのリハビリを受けられる期間と退院後の外来リハビリを受けられる期間・回数に上限が設けられました。

そのため入院中は何時間もかけて行っていたリハビリも、自宅に戻った後は極端に減ることになり、リハビリを続けたくてもできない状況に陥ってしまいます。つまり、リハビリを経て社会復帰をしたくても十分な量と質のリハビリが受けられない「リハビリ難民」が増えていることとなります。

当社ではこの状況を社会における差し迫った課題と捉え、保険内のみのサービスでは限界があることから、リハビリに励み社会復帰をしたいと望むすべての方の課題解決を目指すために、「本当に理想的なリハビリスタジオとは何か」を考え誕生したのが「ウェルビスタ ケアスタジオ」です。

■「ウェルビスタ ケアスタジオ」の3つの柱で、なりたい姿を実現させる

- 1. 身体的サポート:**リハビリの専門知識をもったスタッフがニーズやなりたい姿をしっかりと伺ったうえで、身体評価・生活評価などを考慮し、個々にあった目標とプログラムを設計します。また進捗を見える化し、状況にあわせて定期的な見直しを行いながら、しっかりと寄り添ったリハビリを実現します。
- 2. 精神的サポート:**スタジオ内には自由にお使いいただけるカフェスペースをご用意しています。同じ境遇や目標をもった仲間がいるからこそ、継続できるモチベーションや向上心などが生まれます。
- 3. 社会的サポート:**短期間で効果的な機能向上、動作向上をめざし、就労支援^(*)や社会活動参加への後押しをします。

介護保険サービスと保険外個別リハビリサービスを同時一体的に提供することで生まれる相乗効果により、より早い機能回復と社会復帰が期待できます。

例えば、介護保険サービスだけでは充足が難しいニーズに個別対応ができるのはもちろん、保険外個別リハビリのみでは生まれない仲間とのコミュニケーションによる精神的な効果を得ることができます。さらに、別の日に介護保険サービスで基礎体力を向上させていくことで、保険外個別リハビリで行ったトレーニングとのダブル効果を得ることができます。

■「ウェルビスタ ケアスタジオ」利用者の声

「ウェルビスタ ケアスタジオ」では保険外個別リハビリにより、それぞれの目標を実現されています。ご利用いただいた方々からは「歩行スピードが速くなり、通勤のストレスが軽減された」「支えてくれた家族に再び手料理をふるまえた」「身体の改善を実感できて趣味のゴルフを楽しむことが目標となった」などの前向きなうれしい声がたくさん届いています。
(詳細は後述の「参考資料」に記載)



保険外個別リハビリ(イメージ)

^(*) 紹介先の雇用関係の成立をお約束するものではありません。当面は当社への就労支援となります。

■今後の予定

2022 年内に 3 号店および 4 号店の出店を都内に計画しています。

「ウェルビスタ ケアスタジオ」を通じて、より多くのリハビリへの前向きな姿勢を応援するために、身体的自由を取り戻すサポートはもちろん、精神的・社会的にも良好な状態を実現する支援を行ってまいります。

<施設概要>

- ・施設名称:ウェルビスタ ケアスタジオ 上北沢 (英語表記:wellbista care studio kamikitazawa)
- ・所在地:東京都世田谷区上北沢 4-6-12 小宮ビル 1F
- ・電話:03-5316-2060
- ・アクセス:京王線「上北沢駅」徒歩 4 分
- ・類型:【介護保険】機能訓練型デイサービス、【保険外】リハビリサービス
- ・サービス提供時間:【介護保険】午前 9:00~12:15、午後 1:30~4:45(土日休み)
【保険外】午前 10:00~12:00、午後 1:00~5:00
- ・定員:各部 25 名
- ・利用条件:【介護保険デイサービス】事業対象者、要支援 1・2、要介護 1~5 認定者、
【保険外リハビリサービス】脳血管疾患、脊髄損傷、パーキンソン病、整形外科疾患などの
後遺症でお悩みの方 など
- ・保険外リハビリサービス料金:1 回(60 分)9,240 円、120 分 18,480 円 ※料金はすべて税込み
- ・URL:<https://wellbista-cs.com/>
- ・開設日:2022 年 1 月 4 日

<<会社概要>>

商号 : 株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ

代表者 : 代表取締役社長 中川 清彦

所在地 : 東京都港区北青山 2-7-13 プラセオ青山ビル

設立 : 1975 年 6 月

URL : <https://corp.unimat-rc.co.jp/>

事業内容:【介護事業】全国で高齢者介護事業を「そよ風」のブランドで展開

2021 年 9 月末時点での拠点数は 346、サービス事業所数は 688

【飲食事業】レストラン事業、コーヒー豆加工販売・カフェ事業、洋菓子の製造・販売事業

【ホテル事業】ホテル事業、フィットネス事業等

【その他事業】不動産賃貸事業、有料職業紹介事業、宅食事業

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>
株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ 経営企画室 広報
電話:03-6863-8236 メールアドレス:keiei-kikaku@unimat-rc.co.jp

<参考資料> 「ウェルビスタ ケアスタジオ」1号店(中野新橋)利用者の声<一例>

ケース 1/ 55 歳(女性) / 利用頻度:週 1 回 (60 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
くも膜下出血(2年)	半身まひ・高次脳機能障害	もう一度働きたい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害による左側の注意不足や物忘れが軽減 ・着替えが早く楽になったことで身支度が円滑になり、復職へのモチベーションがあがった <p>身体は元気そうに見えますが、左側の認識が乏しく、歩くと左側をぶついたり、着替えで左右がわからなくなったりと日常生活動作がうまくできず、復職の課題となっていました。リハビリをはじめて1週間で生活の変化に気づき、日常生活が楽になり自信ができました。</p> <p>今後は復職のためのリハビリプランに挑戦。徐々にステップアップできていることに喜びを感じています。</p>		

ケース 2/ 53 歳(女性) / 利用頻度:週 1 回 (120 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
脳出血(2年)	右の片麻痺	家族や友人と外食や買い物を楽しみたい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩く恐怖感が薄れ、リハビリが「楽しみ」に変わった ・右足裏の感覚が付き、右腰の力がついた ・バランス力がついて歩幅が広がった <p>足裏の間隔がないことでわずかな傾斜や段差に恐怖を感じ外出時は車いすで介助が必要でした。今では恐怖心を克服し自分の足で自宅から出ることができるようになりました。次の目標は家族や友人と食事を楽しむために外でのリハビリプランを計画してもらいました。自分の希望や目的にあわせて細かなリハビリプランの変更ができるのが個別リハビリの気に入っている点です。</p>		

ケース 3/ 50 歳(男性) / 利用頻度:週 2 回 (120 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
脳梗塞(2年)	右の片麻痺	趣味を楽しみたい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕が振り上げられるようになった ・筋力・体力が向上した ・外出が楽しくなった <p>本当は自分の足に見切りをつけ、あきらめていました。でも趣味のゴルフをあきらめきれずにお試しでリハビリを開始し、個別でみてもらうことでよくなることを実感。そして、最低限ではなく最高を目指し、身体の改善以上に、ゴルフを最大限に楽しめることを目標にしました。一か月のリハビリでゴルフのフォームもきれいになりました。またリハビリを通じて緩やかな足の動きができるようになったことで、車を安全に運転できるようになり、乗り降りもスムーズにできるようになりました。今後も生きがいを取り戻していきたいです。</p>		

ケース 4/ 50 歳(女性) / 利用頻度:週 2 回 (120 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
脳出血(2年)	右の片麻痺	通勤の恐怖心を克服したい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足をあげるのが楽になった ・歩行速度があがった ・ストレスなく会社に通えるようになった <p>右半身の麻痺が残り、外出は家族のサポートが必要など日常生活に支障が出ていました。さらに通勤となると一段とハードルが高く、電車の降車や横断歩道を青のうちに渡ることができず、恐怖でしかありませんでした。</p> <p>リハビリでは積極的に外に出て、歩行だけでなく恐怖心の克服にも取り組みました。今では歩くスピードも速くなり、横断歩道も青信号のうちに渡りきれようになりました。定期的にみてくださる医師も、その回復ぶりに驚いてくれています。</p>		

ケース 5/ 66 歳(女性) / 利用頻度:週 2 回 (120 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
パーキンソン病(5年)	ふるえ・身体の固縮	引きこもりがちの今を変えたい いつかまたキッチンに立ちたい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根菜類が切れるようになった ・家族に料理が作れるようになった ・移動時の不安が解消された <p>移動は家族の介助が必要、自分の家なのに階段の昇り降りさえできない。徐々に気持ちまで後ろ向きになり、自宅に閉じこもりがちでした。そんな現状を変えたい思いを胸にリハビリに取り組みました。</p> <p>初めは小さな動作ができるようになるリハビリプランに取り組みました。徐々に服の着脱がスムーズになり、自信を感じるようになりました。毎回 2 時間の個別リハビリで、介助なしで自宅階段移動ができるようにもなりました。さらに「孫にカレーを作ってあげること」を目標に取り組んだ 1 か月の集中リハビリに取り組みました。リハビリ前は包丁を握る力が弱く、固く切れなかった根菜が切れるようになり、リハビリ最終日にはその成果を披露する意味でカレーを作りました。家族に食べてもらい本当にうれしかったです。また料理ができる喜びを感じ、気持ちが前向きに明るくなりました。</p>		